

令和3年度 第2回大谷小学校学校運営協議会 会議録

- 1 日 時 令和3年11月12日(金) 8:45~10:40
- 2 場 所 大谷小学校 体育館・校長室
- 3 出席者 石井正雄 藤澤ゆかり 桐生行雄 今別府淳子
(敬称略) 春山茂樹 館松美恵子 内山大輔
- 4 内 容
(1) 音楽発表会参観(体育館)

音楽発表会参観後、校長室にて協議

(2) 音楽発表会について

春山校長：今年も感染症対策のために、クラスを縦割りにして3つのグループを作って発表会を行った。運動会が10月中旬に延期になったことで、練習期間が短く、1・2年生は鑑賞のみとせざるを得なかった。また、発表を行った学年も、打楽器を中心としたコンパクトな発表となった学年が多かったが、見応えがあった。

今別府委員：あそびっ子の準備をしているときに、練習を聴く機会があったが、とても上手になってきていると感じていた。1・2年生は発表できずに残念だった。

春山校長：感染状況にもよるが、来年度は元に戻していきたい。また、保護者に見てもらえなかったのが、観てもらえるようにしていきたい。

石井委員長：6年生のアンコールで行ったボディパーカッションは体育館中に響いていて迫力があった。

桐生委員：今年もすばらしい発表だった。練習時間が少なくても、日頃の積み重ねがあるから、ここまでできたのだと思う。毎年やることにも意義がある。近所の方も観られないことを残念がっていた。インターネット等を使って観られるようにしてはどうか。

春山校長：校内で映すのは問題ないが、外部に出すとなると制限がかかってしまう。

藤澤委員：大谷小は上の学年のよい演奏を聴いて育っている。アメリカンシンフォニーはクラスごとでも大変迫力があった。クラスごとだと、一人一人が希望する楽器を手に行けるチャンスが増えるというメリットもある。

石井委員長：中学校でもあれほどの楽器を音楽の授業で使わないので、重要な機会になっていると思う。

春山校長：高い質を維持するためには、音楽専科の指導が重要になってくる。音楽

専科が異動したときの継続性が今後の課題。

桐生委員：小学校も専科制が入ってくる。専門的な指導ができる先生がいることは、子どもたちにとってはよいことだと思う。

藤澤委員：小学校の先生は、子どもたちのことをよく分かっている先生が指導に当たることも大切。

石井委員長：あれだけの楽器を指導することは大変だったと思うが、子どもたちは充実感を感じることができていたのではないか。

藤澤委員：みんなで音楽をつくる機会があるというのは、学校の価値だと思う。

春山校長：行事の大切さや価値が再認識できた。

藤澤委員：子どもたちが行事に打ち込んでいる姿を、保護者にも伝えていただきたい。

(3) 全国学力・学習状況調査の結果について（教務担当より説明）

藤澤委員：算数で三角形の面積を求める正答率が全国に比べて低かったということだが、公式だけ覚えてるのではないか。なぜ、その公式になるのかを理解していることが大切。

春山校長：頭の中で図形を動かすのは、中学生でも苦手にする子がいる。

桐生委員：学力に課題のある児童への指導・支援を充実させてほしい。意欲を高めたり達成感を味わわせたりできるようにしていただきたい。また、学校の時間は限られているので、家庭学習も重要になると思う。

今別府委員：宿題をまなびっ子やあそびっ子でやっている子もいる。

桐生委員：保護者が仕事で家で勉強を見る環境にない子もいるだろう。まなびっ子などで支援さんに見てもらえる環境があることはありがたい。

今別府委員：年上の子が、年下の子を教えている姿も見かける。

館松教頭：互いに学びあうことが、学力の向上にもつながると思う。

(4) 次回の日程について

令和4年2月18日（金）9時00分から